

Ⅲ 外来部門

発達に障害を持っている児、心の問題を抱えた児などを対象に、医療、各種機能訓練、集団療育、心理療法、幼児保育、療育相談などを行っています。診療科目は小児科（小児神経・小児発達・小児心療）、リハビリテーション科に加えて、非常設科として、整形外科、小児歯科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の診療を行っています。

Ⅰ 実績

令和7年度の外来患者数は、のべ30,388人。1日平均患者数は、個別訓練や集団療育を含めると125.1人/日。また、小児科診察で新患、再診の多い曜日には、180人/日の外来者があります。言語の遅れや落ち着きがない等の小児発達や不登校などの小児心療科を受診する児は、増加しており、巡回療育相談や健診、地域の小児科からの紹介、保育所や学校からの紹介が増えています。

はじめての受診後は、当センターや地域での療育につなげています。

また、専門医がいない地域などには出向いて診療を行っており、令和7年度は諫早総合病院、五島中央病院、上五島病院、対馬病院、平戸市民病院、長崎大学病院小児科、長崎子ども・女性・障害者支援センター、佐々町立診療所となっています。

Ⅱ 担当スタッフ ※他部門との重複を含む

医師：6名、薬剤師：1名、診療放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、理学療法士：7名
作業療法士：7名、言語聴覚士：5名、看護師：7名、保育士：3名、児童指導員：2名
心理士：6名、管理栄養士：2名、調理員：8名

（令和8年7月現在）

Ⅲ 業務内容

診察、治療、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、療育相談及び指導、栄養指導や摂食指導、幼児保育や療育、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、ペアレントトレーニング等

Ⅳ 外来診療体制

以下の体制で、予約制を取り診療しています。診療は発達状況や障害の評価が必要に応じて行われます。

常設科	小児発達・神経・心療：月～金曜日（新患は月・火・水・木の主に午前中）
非常設科	小児整形外科：火・水・金曜日 障害児歯科：月・火曜日 耳鼻咽喉科：第2木曜日 午後 泌尿器科：第1・4木曜日 午後
診察時間	9：00～17：00
休診日	土・日・祝日

5 主な業務の特色

1) 幼児保育

〔趣旨〕

医師をはじめ、多職種との連携のもとに発達段階に応じた保育を行い、子どもの持つ能力を引き出すとともに、集団への適応力を育て、地域の保育所や幼稚園への就園、通所支援事業所等利用へとつなぐことを目指します。

〔目的〕

- 「遊び」を通じて様々な発達を促します。
- 基本的生活習慣の自立を目指します。
- 保護者の保育への参加を通して、子どもへの関わりについて支援します。
- 地域の保育所、幼稚園へ入所する前段階と考え、集団への適応を促します。
- 保護者間の交流を深め、育児の不安や悩みを話す場を設定します。

病棟児・・・個々に応じて遊び方を工夫し、関わる職種間で連携・協力し、術後の回復やリハビリに取り組めるように支援します。

親子入院・・・（リハビリ、ハンドリングが目的の入院）

入院目的に応じた観察およびアプローチを行います。保護者に対して、家庭での遊び方や関わり方を支援します。

外来児・・・個々のケースを観察し、発達段階に応じたアプローチを行います。親子保育を通して、保護者の子どもへの関わり方を支援します。地域の児童発達支援の利用や幼稚園・保育園の就園に向けて、集団への適応を促します。

〔対象〕

- 医師が幼児保育の必要性を認めた児
- 外来児については、保育所・幼稚園に就園していない児

〔その他〕

- ・保護者勉強会・・・子育てに関する知識を得る機会を設定します。
- ・園への技術支援・・・就園後、保護者や園の依頼に応じて園支援を行います。就園先の職員の訪問・見学を受け入れ、相互理解を深めます。

〔実績〕

区 分		3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	
外来	実人員	11	9	6	7	6	
	延人員	191	124	89	128	124	
病棟	実人員	13	20	10	15	10	
	延人員	370	477	186	383	290	
親子棟	らっこ	実人員	38	40	35	33	37
		延人員	410	435	351	351	324
	めだか	実人員	11	10	6	5	7
		延人員	62	51	32	32	54
合計		実人員	73	79	57	60	60
		延人員	1,033	1,087	658	894	792

2) 集団療育

自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症、知的発達症などの子ども達に対してグループでの活動を実施します。

〔目的〕

- ① 子ども達の全体的な発達を促し、将来家庭や地域の中での自立・適応を目指します。
- ② グループ活動を通し、対人意識・対人関係能力を高め集団生活への適応を促します。
- ③ 保護者が子ども達の特性や適切な対応方法を学ぶための支援を行います。
- ④ 関係機関訪問支援を通して園や学校と連携し、子ども達への相互理解を深めます。

〔対象〕

対人面、行動面、認知面などの発達特性により、集団適応に困難さがある幼児から小学生のうち、医師が集団療育を必要と認めた方です。

・午前グループ：超早期(初診受付時、3才未満)、超早期フォローアップ、

幼児（年齢と特性に応じたグループ）

・午後グループ：幼児、学齡児

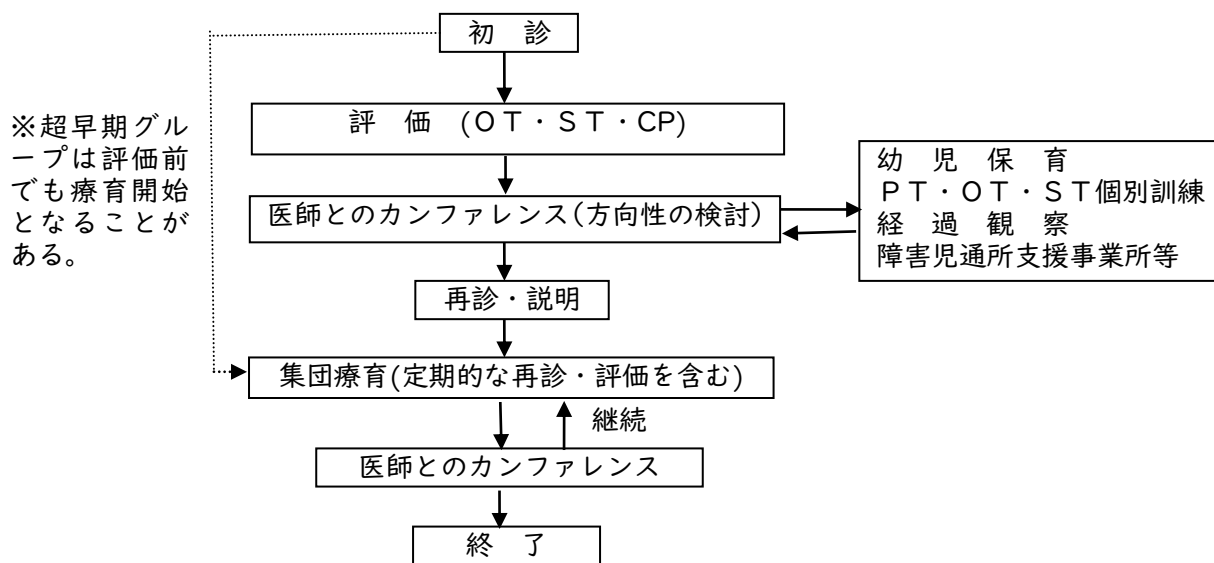
〔頻度〕

・月2回～月4回（対象児による）

〔内容〕

- ・小集団活動の中で子どもの状態に応じた課題や遊びを通して、対人意識やコミュニケーション能力を高め、ソーシャルスキルを学ぶ場を提供します。
- ・得意な活動とともに、苦手な活動にもチャレンジできるような場面設定や対応の仕方を工夫し、自信をつけられるように支援します。
- ・家庭や園・学校での様子を把握し、療育活動と関連づけ、保護者が療育及び子どもへの理解を深められるように支援します。また、言語、運動、遊び、日常生活動作、就学、福祉制度などについて専門職種による保護者勉強会を実施します。
- ・子どもが所属する園や学校などを訪問、支援するとともに、必要に応じて保護者によるサポートブック作成を援助し、地域で安心して生活するための一助とします。

《集団療育の流れ》



○療育登録者及び参加人数の推移(年度)

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
登録者数	75	62	55	60	39
参加実人員	73	62	55	59	39
参加延人数	941	965	820	859	550

○関係機関訪問実績(年度)

箇所／年度	3年	4年	5年	6年	7年
幼稚園	0	3	0	3	1
保育所(園)	9	6	8	8	11
こども園	1	0	0	0	0
小学校	8	8	3	3	5

○令和7年度学年別・居住地別登録者数

未満児	28	諫早市	18
年少	0	大村市	15
年中	0	長崎市	3
年長	4	島原市	1
1年	3	西彼杵郡	2
2年	0		
3年	0		
4年	0		
5年	1		
6年	3		

3) 外来の看護

外来は、前述の看護部の理念をもとに看護を提供し、児(者)への援助の充実を図っています。

外来では、診察・治療・検査時の介助をはじめ、次回の外来予約（診療・処置・検査等）や入院予約時の対応など医師・療法士・心理士・検査技師・診療放射線技師・病棟看護師等の多職種と連携を図りながら援助しています。

また、保護者支援として保健師・社会福祉士・保育士と連携を図り、地域での援助につなげています。外来で処置がある場合は、こどもや対象者の発達や特性に合わせた支援や声掛けを行っています。

○外来・中材業務

外来	診療の介助 リハビリ前の診察介助 診療後の再診予約受付と調整 入院の受付 こどもの状況・心療に関する相談 処置介助 診療材料管理
中材	中材業務

4) 外来訓練

(1) 理学療法

〔目的〕

主に運動発達の遅れや運動障害のある子どもに対して、遊びや生活に必要な粗大運動能力（寝返る・起き上がるなどの姿勢変換能力、座る・立つなど姿勢保持能力、這う・歩くなどの移動能力）の向上を目指した治療や運動を行います。

重い運動障害を持つ子どもに対しては、日常生活を快適に過ごせるように、全身状態の改善・変形予防などの姿勢ケアを目指し治療を行います。また、家庭や学校などでの生活を快適・容易にするために、能力に適した椅子や車椅子・歩行器などの製作をお手伝いします。

〔対象〕

新生児から成人までと年齢は幅広く、中でも乳幼児から中学生までが多い。主な疾患は脳性麻痺、運動発達遅滞、脳炎後遺症、染色体異常、二分脊椎、脊柱側弯、骨形成不全症、発達性協調運動症、その他整形疾患などです。

〔スケジュール〕

・個別 月曜日から金曜日の9:10～17:20で予約制

(2) 作業療法

〔目的〕

発達段階において何らかの困難さ・苦手さがある子ども達に対し、遊びを中心とした作業活動を通して、個々の子どもの発達課題や生活を考慮した治療を行います。また、障害があっても家庭や学校、社会で生き生きと生活できるよう援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症・限局性学習症・注意欠如多動症・発達性協調運動症等の発達障害児、知的発達症、染色体異常・脳性麻痺・脳炎後遺症などの肢体不自由児。

〔スケジュール〕

・個別 月曜日から金曜日の9:10～17:20で予約制

（３）言語聴覚療法

〔目的〕

コミュニケーションや、摂食・嚥下機能に何らかの困難さや苦手さがある子どもたちに対し、コミュニケーション手段の獲得、言語能力の向上、安全な摂食・嚥下機能の獲得を目的として、評価、訓練、助言等の援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症・限局性学習症等の発達障害児、言語症・語音症などのコミュニケーション症、染色体異常・脳性麻痺・脳炎後遺症などの肢体不自由児、聴覚障害。

〔スケジュール〕

・個別 月曜日から金曜日の９：１０～１７：２０で予約制